

YMCAウクライナ避難者支援プロジェクト

2022年2月のロシアによる軍事侵攻から2年が過ぎ、世界中に離散したウクライナ避難民は想定以上の長期化のなかで「人生のやり直し」を迫られています。日本には最大2,600名が避難、YMCAではそのうち約1,600名の生活相談、伴走支援を行っています。長期化・定住を視野に、課題も個別化し、就業支援、子どもの進路進学サポート、日本語学習カウンセリング、そしてQOL（生活／人生の質）の向上のために、多種多様な活動を展開しました。



1. 「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業」

600名の避難民が集中する都内の避難民の支援策として、2022年7月に東京都および東京都つながり創生財団と協定を締結して開始した「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業（ポブートヌイク・トーキョー）」を、2023年度も継続して実施しました。日本YMCA同盟は、都内の避難者宅訪問をはじめ、電話、SNS等を通じた相談対応を通じ、ニーズを

調査し、必要な支援へつなげるとともに、避難者のニーズを広く社会に発信するなど政策提言活動も行いました。

- 訪問・相談対応件数：相談件数 773件（避難民自宅訪問件数 144件含む）
- 定例会実施：隔週1回、東京都ほか関係団体と会合をもち、調査結果や支援内容、課題などを報告・相談

○マッチング支援件数：717件（2023年4月～2024年3月）

相談分類	件数	主な支援
物資	84	新規避難者の生活用品（自転車、夏服等）、学用品（制服、勉強机、文具等）ほか
日本語	76	多様化するニーズに応じた日本語教育、就労のための集中日本語コース紹介
就業	107	キャリアカウンセリング、ハローワーク同行、職場との意思疎通支援、IT実務者研修
手続き	160	ビザ更新、支援金申請、身元保証人とのトラブル対応、補完的保護制度の説明
財政	58	新規避難者への対応、金銭トラブル対応、困窮相談、各種支援策終了に伴う相談対応
教育	65	編入学・進級、言語補助制度、特別支援学級や夜間高校・中学校等との相談対応
医療・メンタル	49	体調・メンタル不調者対応、戦争負傷者も増加。若者の抑うつ状態、高齢者の引きこもり
生活・やりがい	54	生きがいをどう見出すか、どうリフレッシュするか、日本人との交流、文化理解、居場所
その他	64	一時帰国、将来的な帰国についての相談、家族呼び寄せ、ウクライナの学校開始時期に合わせた帰国

2. 生活オリエンテーション

避難者が来日後、住環境が決まるまで滞在するホテルで、日本の生活についてオリエンテーションを行いました。

- 実施回数：24回（4月～3月、隔週水曜日）
- 参加人数：35人
- 内容：都営住宅への引っ越しに関する案内、ごみの分別や

買い物など生活情報、気候や災害についての心構え、また日本語学習や就業、教育のためのガイダンスなど、日本で暮らすための基本的な情報をウクライナ人スタッフが説明しました。

3. イベント、交流の機会提供

① 定例事業

ウクライナ文庫（常設）約600冊の蔵書貸出

② 東京都や各自治体主催のイベントへの協力

（FC東京のサッカー観戦、地域生活サロン等）

③ Ukraine Cafe HIMAWARI (YMCA主催事業)

○実施回数：8回（下記aとb）

○参加人数：232名

○実施内容：

a. 就労支援のためのオンライン IT研修コース：8週間2回

b. 避難者・支援者リフレッシュ企画：

- 日本文化体験イベント・着物と人力車体験（浅草）

- 子どものためのプログラミング体験会

- ウクライナアニメ映画試写会（A Yotsuya）

- 夏休み宿題サポート

- 日本での就労説明会及びIT研修事業修了式

- 10代対象クリスマス・デイキャンプ（YMCA東山荘）

c. 避難者主導のイベント実施支援（YMCAオフィス）：

- プレイバックシアターグループ（20回）

- 読書クラブ（2回）

- 10代の避難者向けイベント（3回）

- ライティング・ワークショップ（2回）

- 手芸クラブ（2回）

4. 協力者や専門家（有識者）との協力

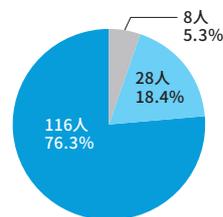
大学教員（大森佐和氏：国際基督教大学教授）、YMCA国際協力委員、難民支援に関わる団体・有識者、ヨーロッパYMCA難民担当者らと意見交換を行い、避難民へのアンケートの実施と分析、公共政策の視点から関連行政等の機能に関する政策提言、諸外国のウクライナ避難民の動向等情報提供を行いました。長期化する避難生活において経済的自立に向けた重点課題の整理やそのプロセスは、日本の難民施策、多文化共生施策にも関わる重要なテーマです。

【アンケート調査】

YMCAが1月に実施した避難者のアンケート（153人回答）によれば、日本での生活については7割以上が「満足」と答えただけで、「将来への不安を感じる」も6割を越え、政府等による支援が打ち切られた後の住宅や、仕事、教育を心配する声が寄せられました。

日本での生活はどうか？

- あまり満足していない
- 少し満足している
- とても満足している



5. 政策提言活動（フォーラム開催、報告会の実施等）

① フォーラムの開催（東京都主催）

- 『ウクライナ避難民居住自治体情報交換会』：8月29日、11月21日
- 『区市町村多文化担当者連絡会議』：2月2日
- 『ウクライナ避難民支援連携フォーラム』：3月22日

② 特別企画『戦禍を逃れて二年 ウクライナ避難者が自ら語る「いま」「これから」』（日本YMCA同盟主催）：2月23日

避難者・有識者・メディア等60人参加

③ メディア対応

本事業について、以下のメディアへの取材協力を行い、掲載されました。

NHK、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、神戸新聞、時事通信、共同通信（京都新聞・静岡新聞・茨城新聞・秋田さきがけ新聞・佐賀新聞・山陰中央新報・信濃毎日新聞・山陰新聞・長崎新聞・高知新聞・中部経済新聞、西日本新聞、河北新聞）、The Japan News

④ 講義・講演・研修の実施：中学校・高校・大学・各YMCA・

教会・NGO団体等 約40回 約3600名



戸別訪問の様子



特別企画『避難者が自ら語る「いま」「これから」』2/23



中高生デイキャンプ（@YMCA東山荘）